

平成 25 年（2013 年）10 月 30 日
横須賀美術館運営評価委員会 資料 4 - 1

平成 25 年度
横須賀美術館 活動状況中間報告書

平成 25 年（2013 年）10 月

横須賀美術館

I 美術を通じた交流を促進する

①広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

【事業計画】

1 集客を意識した展覧会の実施 展覧会及び観覧者数（見込み）

展覧会名	会期	観覧者数(見込)	観覧者数(実績)
日本の木のイス展	4/1-4/14	3,500	3,661
街の記憶展	4/27-6/30	13,000	14,021
日本の「妖怪」を追い！	7/13-9/1	20,000	29,701
たいけん、ぼうけん、びじゅつかん！	9/14-11/4	20,000	
山崎省三・村山槐多とその時代	11/16-12/23	12,000	
第66回児童生徒造形作品展	1/11-1/27	15,000	
所蔵品展だけの期間	上記以外	4,500	
計		88,000	47,383

2 広報・集客促進事業

展覧会やイベント、美術館のロケーションなどを広く周知し、親しみやすい美術館のイメージを高め、交流拠点としての集客を図る。

(1) 展覧会やイベント等の広報宣伝による集客促進

- ・京浜急行電鉄等への広告掲出

⇒展覧会ごとに京急線駅貼り1回、窓上1回を実施しているほか、必要に応じて広報の効果を高めるための広告を実施。

《実績》

京急駅 駅貼り（2週間）3回、窓上（4週間）3回

東急東横線 窓上（4週間）1回 ※妖怪展で実施

- ・ホームページ、ツイッターを活用した情報発信、フェイスブック導入検討
⇒ホームページ、ツイッターを活用して展覧会、イベント等や美術館に親しみを感じてもらえるような情報を随時更新・発信。

《実績》

ホームページの更新 随時

ツイッターの活用 ツイート回数 770回（9/30まで）

フェイスブックの導入 検討中

- ・広報よこすか等他部局の広報媒体を活用した情報発信
⇒毎月の広報よこすかで展覧会情報を始めとした情報を発信。
 - ・インバウンドを推進するための環境づくり
⇒外国人の観覧客を招く基礎作りとして英語版パンフレットを予算要求中。
- (2) イベント開催を通じた知名度・イメージの向上による集客促進
- ・コンサートの開催
⇒クリスマスコンサートを実施予定。
 - ・美術館ウェディングの開催
⇒美術館ウェディングは申込がなかったため開催せず。
《参考》
問い合わせ件数6件 下見件数4件
- (3) 来館者サービスによる集客促進
- ・年間パスポート、前売券の販売
⇒美術館受付での販売のほか、横須賀芸術劇場でも販売を行っている。
《実績》
年間パスポート 上半期 373 枚 (昨年度上半期 235 枚)
前売券 上半期 67 枚 (昨年度上半期 50 枚)
 - ・福利厚生団体等との割引施設契約の実施
⇒市町村共済組合や私学共済事業団などの福利厚生団体と割引契約を締結している (昨年度と同数)。
- (4) 他部局、事業者との連携による集客促進
- ・カレーフェスティバル等市内外イベントへの参加
⇒カレーフェスティバル (5/11、12)、横浜F・マリノス「横須賀 City Special」(7/13) に参加、他館連携 (三井記念美術館、そごう美術館)
《実績》
美術館ブースの出店2回、妖怪展での広報協力・相互割引など
- (5) 団体集客の推進
- ・旅行会社への団体ツアーの提案
⇒クラブツーリズムの他、京急観光とも団体ツアーの協定を締結した。
《実績》
クラブツーリズム観覧者数 上半期 1,727 名 (昨年度上半期 401 名)

京急観光観覧者数

上半期 167名 (昨年度上半期ツアーなし)

(6) 商業撮影の受入と誘致

- ・ドラマや映画、カタログや雑誌等のロケーション撮影の受入と誘致
⇒美術館のアピールに繋がるため、美術館としての業務の妨げとならない範囲で積極的に受け入れを行っている。

《実績》

撮影件数9件 (動画撮影3件、スチール撮影6件)

《参考》

問い合わせ件数27件 (動画撮影10件、スチール撮影17件)

【達成目標】 年間観覧者数 98,000人

[目標設定の理由]

- ・「横須賀市立美術館基本計画」(平成12年6月策定)では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などを勘案し、年間観覧者数を10万人としています。
- ・しかし、平成25年度の年間観覧者数の見込みは、2・3月の企画展が未定ということもあり88,000人に留まっています。
- ・そのため、今年度の達成目標は、これまで目標としていた10万人を下回ることになりますが、98,000人とします。
- ・なお、年度途中に予算の補正を行い、横須賀美術館主催の企画展を2・3月に実施することになった場合は、当該企画展の観覧者見込み数を加算して達成目標とします。

(単位：人)

年度	平成23年度	平成24年度(※)	平成25年度(9月末)
観覧者数	108,985	123,203(97,535)	56,182
来館者数	224,109	242,229	130,351

(ア) 観覧者数

発券数を根拠とした計算値。一日に複数の展示を見た場合も累計しない(企画展、所蔵品展、谷内六郎館すべてを見た場合でも1人と数える)。無料観覧者数を含む。展覧会を見なかった人(例：図書室のみ利用)は含まない。

(イ) 来館者数

本館の2か所の出入りに設置しているオートカウンターによる計測値。入っていくのみを数え、出て

いく人は数えない。谷内六郎館に入る人を加算していない(いったん本館で受付をするため)。レストランのみの利用者も加算していない。

(※) 平成 24 年度の観覧者数、来館者数は、特別企画展の観覧者数を含む

「L' Anniversary EXHIBITION」	23,226 人
「70's ハイブレーション」	2,442(総計 8,362 人)
	25,668 人

【実施目標】 広報、パブリシティ活動を通じて、市内外の広い層に美術館の魅力をアピールする。

[目標設定の理由]

- ・横須賀美術館の魅力は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市のシティセールスや交流都市の推進という観点からも重要になります。
- ・市内外に積極的に情報を発信して広い層に魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定しました。

(無料での情報掲載数)

- ・過去 3 年(平成 22 年度～24 年度)の情報掲載数が平均で約 200 件であることから、マスコミへの積極的な訴求活動を行い、10%増の 220 件を目標とします。

(単位：件)

媒体	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度(9 月末)
新聞	46	50	28
美術系雑誌	37	26	15
タウン紙	28	31	23
フリーペーパー	6	4	2
情報誌(地域版)	4	6	2
情報誌(全国版)	19	19	17
WEB	30	40	14
ファッション誌	6	11	7
機関紙(会員誌)	12	13	4
その他	12	7	8
合計	200	207	120

(美術館公式ツイッターのフォロワー数)

- ・新たな情報発信のツールとして、平成 24 年 10 月から美術館公式ツイッターの運用を開始しました。約 5 か月でフォロワー数が 500 人を上回りました。平均で 100 人/

月が増加していることを踏まえ、フォロワー数 2,000 人を目標とします。

⇒フォロワー数 1,236 人 (9月末現在)

(インバウンド推進のための環境づくり)

- ・将来的に外国人観光客を誘致するための環境づくりを始めます。多くの外国人に利用されているフェイスブックの導入、外国語によるパンフレットや案内サインの作成、米海軍横須賀基地との連携など研究していきます。

⇒英語版ミュージアムガイドとフロアガイドを予算要求中

(商業撮影の受け入れ件数)

- ・イメージアップと認知度向上を目的として、商業撮影を受け入れています。撮影時間等の要望に柔軟な対応をすることで、件数が増加しています。引き続き、積極的に受け入れ、30 件を目標とします。

年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度(9月末)
撮 影 件 数	21 件	22 件	9 件
使 用 料	494,000 円	677,500 円	1,538,500 円

②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

【事業計画】

1 美術館ボランティア活動の推進

ボランティアが美術館の活動を支援することで、自らのやりがいを見出し、市民の美術への親しみを増す一助となるとともに、市民の交流の場となることを目指し、ボランティア活動の推進を図ります。あわせて、ボランティア自身の美術への理解を深めるための育成を行います。

美術館ボランティアは、美術館活動を支援する「サポートボランティア」と、美術館を盛り上げるためのイベントを自ら企画実施する「プロジェクトボランティア」の2チームの活動を継続しています。

2 サポートボランティアによる活動

110 日程度

- ・所蔵品展ギャラリートークの開催（毎週日曜日）
- ・ワークショップ事業の補助
- ・小学校美術館鑑賞会の受け入れ補助
- ・研修会、会議の開催

⇒メンバー18名のうち7名が24年度からの新規メンバーとなって、活動に活気が生まれています。新メンバーを含め、お互いの認識共有を図るため、今年度の研修では各活動の振り返りや情報交換の時間を多く取り入れています。

3 プロジェクトボランティアによるイベントの企画・実施

30 日程度

- ・ゴールデンウィーク、夏休み、クリスマス等の時期に、美術を通じた誰でも参加できるイベントを3回程度実施します。

⇒「海風のみちを彩ろう」（5月3日）、「ガリバーキャンバス2」（8月18日）を開催しました。現在は、12月15日の開催に向けて、準備をしています。

4 ボランティア活動のPR及び参加者の募集

- ・美術館ホームページを活用したボランティア活動のPR

⇒実施しています。ホームページを見ての問い合わせは年間2、3件あり、今年度もすでに1人、問い合わせをいただいています。しかし機会がないと更新しないので、訴求力は高くないと考えます。

- ・第3期サポートボランティアの育成

⇒育成のための研修を継続しています。なお、7月からは、第3期サポートボランティアの方々にも、実際に所蔵品展ギャラリートーク、小学校美術鑑賞会の補助に参加していただいています。

- ・プロジェクトボランティアの継続募集
⇒ホームページおよびチラシ（館内配布、イベント開催時の配布）により募集を継続しており、今年度に入って数名の方が新規に活動に参加しています。

【達成目標】 市民ボランティア協働事業への参加者数のべ 2,100 人
(事業ごとに加算、登録者・一般参加者を総合して)

[目標設定の理由]

- ・参加者数は「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための指標の 1 つとなります。
- ・プロジェクトボランティア、サポートボランティアとも、主な担い手となる人数がわずかながら増加し、安定した活動をしています。
- ・プロジェクトボランティアの活動では、イベントの一般参加者数が飽和に達し、これ以上は増加しないと考えられます。
- ・サポートボランティアの活動では、ギャラリートークへの参加者平均が微増しています。
- ・以上を勘案し、25 年度の目標は、2,100 人とします。

(市民ボランティア協働事業へののべ参加者数)

(単位：人)

	プロジェクトボランティア		サポートボランティア		計
	登録者	一般参加者	登録者	一般参加者	
22 年度	91	580	375	174	1,220
23 年度	197	533	434	274	1,438
24 年度	258	1,116	392	309	2,075

*プロジェクトボランティア

- ・美術館のイメージアップと美術館の利用を高めるため、自らイベントを企画実施するボランティア。
- ・主な活動は、市民等が参加し楽しめるボランティアイベントの開催。
- ・登録者数 43 名(平成 25 年 3 月末現在)

*サポートボランティア

- ・美術館が主催する活動に共感し、自身の知的欲求を充足しつつ美術館活動をサポートするボランティア。
- ・主な活動は、ギャラリートークの実施。ワークショップや鑑賞会の補助。
- ・登録者数 30 名(平成 25 年 3 月末現在)

【実施目標】

- ・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。
 - ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。
-

[目標設定の理由]

- ・市民感覚を持ったボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。また、美術館への親しみ、愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。
- ・横須賀美術館のボランティア活動は労働ではなく、美術館の担うべき社会教育の一環です。ボランティアがそれぞれの創意と経験を活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、やがてそれが地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。

Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める

③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

【事業計画】

1 展覧会事業

国内外の優れた美術品を展示し、感動と思索を得る場を提供します。

(1) 企画展・・・特定のテーマによる展示とします。例年 6 回開催していましたが、平成 25 年度は自主事業としては、5 回開催予定。

- i 街の記憶—写真と現代美術でたどるヨコスカ
4月27日(土)～6月30日(日)
 - ・東松照明、森山大道、石内都、ホンマタカシら 15 作家による、戦後の「ヨコスカ」を題材とした写真、現代美術に資料を加え、約 200 点で構成します。質の高い写真を展示すると同時に、本格的に写真を紹介する初の展覧会。
⇒横須賀美術館で初めての写真を中心とした展覧会に取り組み、新たな観覧者層を獲得することができました。また、一般の方からの横須賀にまつわる思い出写真を募集し、好評を得ました(観覧者 14,021 人)。
- ii 日本の「妖怪」を追え！
7月13日(土)～9月1日(日)
 - ・浮世絵から、近代の日本画や油彩画、そして現代美術まで、さまざまなかたちで表現された「妖怪」を通して、日本人の世界観の変遷をたどります。
⇒「日本の「妖怪」を追え！」展は、予想を上回る高評価の展覧会となりました(観覧者 29,701 人)。浮世絵をはじめとした質の高い美術作品を親しみやすいテーマのもとで紹介したことが好評の要因と考えます。
- iii 親子で楽しむ現代アート たいけん、ぼうけん、びじゅつかん！
9月14日(土)～11月4日(月・祝)
 - ・plaplux、日比野克彦、KOSUGE1-16、松井紫朗による参加、体験型の作品を集め、質の高い現代美術に親しみを持ちながら、親子で楽しめる展覧会です。
- iv 山崎省三・村山槐多とその時代
11月16日(土)～12月23日(日)
 - ・横須賀に生まれた山崎省三は、同い年の村山槐多との友情を育み、遺作の紹

介に尽力しました。農民美術運動や自由画教育に携わりながら、独自の表現を追究した、画家の生涯とその時代を振り返ります。

v 児童生徒造形作品展

1月11日(土)～1月27日(月)

- ・市立の幼、小、中、高、ろう、養護、すべての学校園の子どもたちが日ごろの授業でつくり上げた平面作品・立体作品など約3,000点を展示します。

(2) 所蔵品展・谷内六郎《週刊新潮表紙絵》展・・・年4回開催を予定

i 第1期所蔵品展 4月20日(土)～6月23日(日)

⇒これまで展示の機会が少なかった立体作品および初展示となる植松真治のデザインを展示し、所蔵品の紹介につとめました。

ii 第2期所蔵品展 6月29日(土)～10月20日(日)

⇒拡大所蔵品展として横須賀ゆかりの彫刻家・真板雅文に焦点を当て、平成24年度新収品のほか、平面作品や多数の立体作品によって、この作家の多面的な魅力を紹介しました。

iii 第3期所蔵品展 10月26日(土)～26年2月2日(日)

iv 第4期所蔵品展 2月8日(土)～4月13日(日)

2 教育普及事業

知的好奇心の育成と充足のために実施。

(1) 展覧会関連の外部講師による講演会の開催 7回

展覧会を深く理解できるよう、外部講師による講演会を開催

・開催：土日 定員：各70名程度(先着制)

「街の記憶」展関連講演会

「はじまりの場所—横須賀と写真家」6月22日(土)14:00-15:20

講師：倉石 信乃氏(明治大学教授)

⇒横須賀を被写体とした写真をテーマに、写真史の中での「横須賀」の意味について掘り下げました(参加者40名)。

「日本の「妖怪」を追え！」展関連講演会

「怪談の夕べ」①8月10日(土)18:00- ②9月1日(日)16:00-

講師：一龍齋貞山氏(講釈師)、新藤茂氏(浮世絵研究家)

⇒実施時間を夕刻に設定し、講師に怪談を演じていただいたほか、展覧会にちなむ江戸文化についてのお話もうかがいました。内容、時間帯とも新しい取り組みでしたが、定員の二倍以上のお申し込みがあり、好評のため1回の

追加開催をしました。

(参加者①62名、②67名)

- (2) ワークショップの開催 7回
美術への理解を深め、美術館に対して親しみを感じられるよう、多様なテーマによるワークショップ事業を開催します。

- ・ 展覧会に関連したワークショップ 3回
- ・ 大人向けワークショップ 3回
- ・ 開催：土日 定員：各20名程度（事前申込制）

「街の記憶」展関連ワークショップ

「うまくならない写真ワークショップ@横須賀」5月12日(日) 10:00 - 18:20

講師：大山 顕氏（“ヤバ景” フォトグラファー／ライター）

⇒街歩きと写真を組み合わせた野外ワークショップという新しい手法を取り入れました。また、今年度からワークショップ参加費（500円）を徴収しています。（参加者18名）

- (3) 映画上映会の開催 2回
優れた映像美術に触れ、多様な表現に親しむことのできる映画会（シネマパーティー）を開催します。

- ・ 開催：年2回 定員：25名×2回（事前申込制）

- (4) 学芸員による企画展ギャラリートーク 15回
展覧会の趣旨や見どころ、主要作品の解説など展覧会を深く理解していただくことを目的として開催。

- ・ 企画展毎に1、2回程度 開催：土日（当日自由参加）

「街の記憶」展

5月25日、6月1日

「日本の「妖怪」を追い！」展

8月10日

⇒「日本の「妖怪」を追い！」展では、午後6時からの「怪談の夕べ」に合わせ、5時からトークを行うなど、新しい試みも取り入れています。

- (5) 学芸員による展覧会観覧の案内・解説 随時
学生・グループなど、観覧にあわせ展覧会をより楽しく観覧できるよう要望に応じて、展覧会の案内・解説を行います。

⇒団体観覧の申込時に意向をうかがい、要望に応じて実施しています(25件)。

また、市民大学との連携による「とわいらいとツアー」(8月23日17:00 - 20:00 参加者20名) 等も実施しました。

3 美術図書室運営事業

美術図書等約2万5千冊を揃えた図書室を運営し、利用者サービスをはじめ、美

術への興味や理解が深まる場を提供します。

(1) 所蔵図書の充実

・一般的な美術書に加え、企画展に関連する書籍や子供向けの絵本、貴重な美術雑誌（古書）などを購入し、蔵書の充実を図ります。

⇒適宜購入しています。特に、企画展の理解を助ける関連図書については、購入するだけでなく、企画展展示室内に図書案内のファイルを置くなどして、お客様が活用しやすいようご案内しています。

・古書の補修および修復をし、保存に適した状態にします。

⇒適宜実施し、閲覧に供することができるようつとめています。

(2) 美術に関する情報提供

・来館者が利用できる端末機を設置し、図書室の蔵書を検索できるようデータベースを随時更新します。

⇒受け入れた図書資料は速やかに登録し、データに反映させています。

・企画展の開催に併せた関連図書の紹介を行います。

⇒各企画展の開催期間中に、下記の図書資料を展示架に配架しました。

「街の記憶」：出品作家の写真集や横須賀の風景写真集など

「妖怪を追え！」：妖怪画や浮世絵に関する資料や出品作家の作品集など

【達成目標】企画展の満足度（補正值）81%以上

⇒現時点では算出しておりませんが、展覧会ごとでは、「街の記憶」展が68.7%、「日本の「妖怪」を追え！」展が73.6%となっています。作品評価や心的充足度よりも、観覧料、解説・順路の2つについての評価が低く、足を引っぱっています。導線設計および誘導計画については補強すべき要件と考えます。

[目標設定の理由]

- ・展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安としました。
- ・満足度は来館者へのアンケートによって算出しています。同じ方法の調査を継続的に行っており、目標はこれまでの最高である平成24年度の80.9%を超える81%としました。

年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
企画展満足度	78.7%	80.6%	80.9%

【実施目標】

・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間5回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。

・所藏品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回開催する。

⇒企画展、所藏品展、谷内六郎展について、計画どおり開催しています。

・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。

・所蔵図書資料を充実させる。

⇒図書資料の受け入れを積極的に行っております。

・多くの方が気軽に利用できるよう、図書室の環境を整える。

⇒エントランスと展示室に図書室利用案内や図書資料紹介のチラシを配置し、利用を促しています。毎朝の配架整理と清掃を行い、快適な利用環境を維持しています。

・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。

[目標設定の理由]

社会教育機関としての美術館は、常に知的好奇心を満足させる事業を行い、また、

そのための環境を整えていかななくてはなりません。美術として扱うべき領域はとても広く、利用者の幅広い興味に応えるためには、所蔵品展以外にもさまざまなテーマを設けた企画展を開催する必要があります。作品の借用が許される期間に限度があることなどを考慮し、1カ月半から2カ月程度を目安とした年間5回の企画展を計画・開催しています。また、コレクションの魅力を紹介するために、所蔵品展および谷内六郎展をそれぞれ年間4回開催しています。

さらに、横須賀美術館では、美術への親しみ、理解を深めるために、講演会やワークショップなど、年間を通じてさまざまな教育普及事業を展開しています。ここでは、広く一般向けの教育普及事業について、評価の対象とします。

これらの事業を企画・実施するための基礎が、調査研究です。範囲は、所蔵作品に関することを中心に、広く美術に関すること、教育普及に関することを含みます。

④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。

【事業計画】

学校との連携

- 1 「アーティストと出会う会」(中学生、高校生) 2回
活躍する現役アーティストを招聘し、こども時代の夢や取り組みなどを紹介することで、中学生が将来への夢や希望を美術の側面から支援する講演会を開催します。
⇒夏休み期間中に実施しましたが、部活等との日程調整が難しく、参加者の伸びが思わしくありません(各日15名程度)。次年度以降は対象を拡大して広報したいと考えます。
- 2 中学生のための美術鑑賞教室の開催 14回
中学生向けに鑑賞ガイドを用意し、学校外での美術を学ぶ場となる美術鑑賞教室を開催します。
⇒夏休み中に15回実施し、216名が参加しました。
また、夏休み期間中に来館される小中学生向けに作成した鑑賞ガイド3000枚も、ほぼすべて配布することができました。
- 3 「美術鑑賞会」の受け入れ(市内全小学校6年生) 46回
市立の全小学校6年生を対象に、ワークシートを用いて美術館における美術鑑賞教育となる鑑賞会を開催します。
⇒9月末までで15校の来館があり、約1000人の児童が美術館を活用しています。今後も計画通り実施の予定で、各小学校の担当の先生との打ち合わせ等を進めています。
- 4 出前授業の実施 随時
学校教育と連携し、美術館職員が学校に出向き、授業の中で美術館を活用した美術教育を実践する出前授業を実施します。
⇒3の「美術鑑賞会」と連動した出前授業を2回、中学校に1回、実施しました。小学校での出前授業では、「美術鑑賞会」と連動させることで来館時の鑑賞体験に格段の充実が見られることがわかりました。
- 5 職業体験の受け入れ 随時
子どもたちが美術館での仕事を体験する職業体験の受け入れを行う。
⇒9月末の時点で1校がすでに実施、今後は13校の受け入れ予定があります。毎年、各校2~3日間でほぼ同内容での体験となるように心掛けていることが、先生方からの信頼を得ることにつながっていると考えます。

6 学芸員実習の受け入れ

随時

⇒夏休み中に実施しました(8月16日 - 21日の6日間)。今年度の応募者は6名で、全員を受け入れました。各学生の専門領域を考慮し、実習内容には教育普及事業を多く取り入れました。

子どもたちへの美術館教育

1 ワークショップの開催

9回

子どもたちが美術に親しめるようなワークショップ事業を開催します。

・ 展覧会関連ワークショップ、子ども向けワークショップ

開催：5月、10月、定員：40～60名程度（事前申込制）

「日本の「妖怪」を追え！」展関連ワークショップ（小学生以上対象）

「パクパク妖怪パペットを作ろう」7月13日（土）13:00 - 16:00

講師：鎌田 紀子氏（出品作家）

⇒独特な雰囲気のある人形をつくる鎌田さんの手法を、簡単なパペット制作を通じて体験するワークショップ。（参加者24名）

海の日ワークショップ（未就学児対象）

「磁石を使ってつくろう 魚つりゲーム」

①7月14日（日）、②7月15日（月・祝）各日14:00 - 16:00

講師：和田 治男氏（立体イラストレーター）

⇒海の日にちなんで、海のいきものを親子でつくるワークショップを行いました。小さい子どもでも個性を發揮できる内容でした。

（参加者①27名 ②31名 計58名）

・ 未就学児ワークショップ

開催：3月 定員：40名程度（事前申込制）

2 映画上映会の開催

2回

気軽に映画を楽しめるよう屋外での映画会を開催します。

開催：夏 定員：なし（当日自由参加）

夏の野外シネマパーティ

「オーレ・エクセル・イン・モーション」

①8月24日（土）、②8月25日（日）19:00 - 20:00

講師：キノ・イグルー（有坂壘・渡辺順也）

⇒海の広場に仮設スクリーンを建てて行う野外上映会。スウェーデンを代表するグラフィック・デザイナー、オーレ・エクセルのイラストを使った短編アニメーション5本、およびオーレ・エクセルとスウェーデンデザインについて

でのドキュメンタリー作品により、計45分のプログラムを上映しました。
土日とも雨との予報のなか、1日目は降らず大盛況でしたが、2日目は直前に土
砂降りとなったため、急きよ室内での上映に切り替えました。
(参加者①310名 ②62名)

- 3 親子ギャラリーツアーの開催 4、5回
親子での美術鑑賞の楽しみ方を知ってもらうための学芸員によるギャラリーツア
ーを開催します。

「街の記憶」展「子どものためのギャラリーツアー」
6月10日(月) 11:00 - 12:00 (参加者1組1名)
「日本の「妖怪」を追え！」展「親子のためのギャラリーツアー「探検！妖怪ワー
ルド」
8月10日(土) 11:00 - (参加者11組30名)

⇒親子ツアーはこれまで、できるだけ多くの人に参加してもらうため、定員を超え
た場合も抽選とせずに全応募者に対応していましたが、好評な事業であり今後も
応募者増が見込まれるため、実施人数や定員について検討が必要と考えます。
⇒このほか、政策推進課との連携により、2回の親子ツアーを別途実施しました。

- 4 保育園との連携 20回
市立保育園 10園と連携し、おもに年中・年長の児童に向けた鑑賞プログラムを実
施します。園ごとに、学芸員による「出前プログラム」と来館時の「美術館ツアー」
の二つを行います。
⇒9月末までに6園で実施、今後も12月までに4園で実施する予定です。
2年目の今年は、計画段階から余裕をもった運営ができるようになったほか、子
どもたちも美術館をよりよく知るようになって、内容が充実したと考えます。

【達成目標】 中学生以下の年間観覧者数 20,000 人

[目標設定の理由]

- ・子どもたちが美術館に親しみを持ち、利用しやすくするためのさまざまな取り組みをしていますが、その成否は、実際の観覧者数に反映されるはずです。

今年度の目標は、過去3年（平成22年度～24年度）の観覧者数の平均が19,620人であることを踏まえ、20,000人としました。

(中学生以下の観覧者数)

(単位：人)

	幼児	小学生	中学生	計
平成22年度	3,074	10,418	2,941	16,433
平成23年度	4,041	14,442	4,285	22,768
平成24年度	4,314	11,464	3,881	19,659
平成25年度	2,218	5,017	3,103	10,338

【実施目標】

- ・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。

⇒1月の実施に向け、造形教育研究会の先生方とともに準備を進めています。

- ・学校と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。

⇒所蔵品をカード化した教材の開発とその活用方法の検討のため、先生方との勉強会や事前授業の実施等を、月1回程度のペースで行っています。

⇒「中学生のための美術鑑賞教室」では、中学校の宿題・課題に役立つ内容を心がけました。

- ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。

⇒親子ギャラリートークや保育園との連携、小学校への事前授業の実施など、子どもたちと学芸員とが直接コミュニケーションできる普及活動を実践しています。

- ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。

⇒保育園の受け入れでは、鑑賞をもとにした創作アクティビティを取り入れています。

- ・小学校鑑賞会を充実させるため学校との連携を強化します。鑑賞会と連動した教材の開発、出前授業の実施などを教員と協力しながら実施します。

⇒教育指導課とも連携しながら、これまで3校に対し、事前授業を行っています。

〔目標設定の理由〕

美術教育は表現と鑑賞との両輪によってなりたつものですが、多くの学校教育現場では鑑賞の機会に乏しく、表現としての造形教育に偏りがちでした。

近年の学習指導要領では、小・中学校における鑑賞教育がより重視されるようになってきています。平成 23 年度から実施された小学校の新学習指導要領では、鑑賞教育のために地域の美術館を利用することに加え、学校と美術館との連携を図ることが明示されています。

学校教育ではできない、美術館にしかできないことは何かをじゅうぶん意識しながら、鑑賞教室やワークショップ、作家との連携等充実したプログラムを企画、提供することによって、子どもたちが美術に親しみをもつ機会の拡充につとめていきたいと考えています。

⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

【事業計画】

新たな美術品の収集（寄贈、寄託の受け入れ）を行うとともに、所蔵する美術品約4,500点の管理を行います。

- 1 所蔵作品の管理（作品の貸出及び修復・額装）
- 2 美術品の収集（購入予算は無、寄贈、寄託の受け入れ）
美術品の収集方針・・・近現代の絵画、版画、彫刻とし、次の基準によります。
 - (1) 横須賀・三浦半島にゆかりのある作家の作品
 - (2) 横須賀・三浦半島を題材とした作品
 - (3) 「海」を描いた作品
 - (4) 日本の近現代を概観できる作品
 - (5) その他、上記に関連ある国内外の優れた作品
- 3 環境調査の実施（年2回）
⇒昆虫類、菌類、気相についての調査を①5月21日～6月18日、②8月27日～9月26日の日程で実施し、概ね良好な結果を得ました。
- 4 美術品評価委員会の開催
⇒平成25年度の委員会は1～3月に実施の予定です。

【達成目標】（なし）

[目標設定の理由]

購入費（基金）が充当されていないため、収集は寄贈に頼っている状況です。

寄贈される作品の質については、専門家による外部委員会である「美術品評価委員会」によってすでに保証されていますが、作品の収集は数量によって評価されるべきではありません。

作品の修復、額装等の処置についても、個々の事例に即して対処しているため、やはり数量的な評価に適していません。

作品の貸出は、依頼に応じて行う性格のものであり、また、作品保護の観点からも数量的な評価をすべきではないと考えます。

したがって、この項目では達成目標を設定しません。

【実施目標】

- ・ 収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。
 - ・ 適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。
 - ・ 計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。
 - ・ 所蔵作品がひろく価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。
-

[目標設定の理由]

・ すぐれた美術作品をひろく収集し、次世代に伝えてゆくことは、美術館の果たすべき基本的な役割です。そのために、保管のための適切な環境整備と、作品そのものの修復および保護を行っています。他の機関での展示等の所蔵品の活用は、作品への影響をじゅうぶんに考慮したうえ、可能な範囲で行っています。

Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

【事業計画】

- ・受託事業者との定期的なミーティングの実施（運営事業者連絡会議）
⇒毎月1回開催しております。
- ・防災避難訓練を含む館内スタッフの研修の実施
⇒10/7 訓練実施。次回は3月実施予定。
- ・展示監視日報による課題の把握と情報の共有
⇒展示監視員より提出いただき、課長供覧しております。来館者からの苦情や、学芸員への疑問点などある場合は、担当学芸員から回答しております。
- ・館内巡回による清掃及びスタッフ対応等の確認
⇒担当係長による巡回をほぼ毎日実施しております。

【達成目標】

- ・館内アメニティ満足度 91%以上
⇒87.8% (9月末現在)
- ・スタッフ対応の満足度 80%以上
⇒78.0% (9月末現在)

[目標設定の理由]

- ・館内アメニティ満足度については、来館者が気持ちのよい時間を過ごしていることを示す指標であると考えます。21年度から、アンケートのなかに質問事項を加え、「全体的にみて、館内では気持ちよく過ごすことができた」に対する満足度を指標（総合満足度）としました。
- ・館内スタッフとの連携を密にし、課題の把握と対策を図り、これまでの最高を超える91%を目標としました。
- ・スタッフ対応の満足度については、来館者アンケート「スタッフの対応・案内は適切だった」に対する満足度です。
- ・館内スタッフとの定期的な情報交換及び研修を行うことで、これまでの最高を超える

80%を目標としました。

- ・スタッフ対応に関する来館者アンケートについては、25年度から今までの5段階評価に加え、よかった・よくなかったところを具体的に記述していただく欄を設け、原因を究明し改善策の検討を行い、満足度の向上に努めていきます。

⇒近隣美術館のアンケート用紙を収集し、現在分析を進めております。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
館内アメニティ満足度	88.5%	90.4%	87.6%
スタッフ対応の満足度	78.0%	78.5%	79.1%

【実施目標】

- ・建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。
⇒エントランス内の水飲み場周囲の再塗装を実施(6/3)しました。
また、8月より図書室奥をビュースポットに指定し、写真撮影可能としました。
- ・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。
⇒バリアフリーアドバイザー派遣事業に応募し、バリアフリー診断を受けました。
- ・受託事業者と協力して、付帯施設（レストランおよびミュージアムショップ）を来館者ニーズに応じて運営する。
⇒毎月1回、運営事業者連絡会議を開催し、情報共有を行い、サービス向上を目指しています。

〔目標設定の理由〕

- ・横須賀美術館が来館者に好ましい印象を持たれている大きな要因の1つは、周囲の豊かな自然と、その風景と調和したユニークな建物です。しかし、海のそばに立地しているため、強い風雨にさらされることも多く、また塩害によって老朽化の速度が進んでいることも事実です。建築の魅力をいつまでも来館者に伝えていくためには、適切なメンテナンス、清掃を継続してゆくことが重要です。
- ・また、スタッフの対応によって、美術館に対する印象は大きく左右されます。受付・展示監視スタッフは受託事業者ですが、市職員との緊密な連携を図り、一体となって、来館者の立場に立ったより良い接客を目指します。
- ・美術館を訪れた際、買い物や食事をする 것도、来館者の大きな楽しみです。民間事業者であるレストランおよびミュージアムショップと連携し、来館者のニーズに即応したサービスの提供がなされるよう、知恵を出し合い、工夫を重ねてゆきます。

⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。

【事業計画】

- 1 福祉活動講演会の開催 1回
さわれる彫刻や絵画など、誰もが美術に親しめるさまざまな研究や事例を紹介していく講演会を開催します。
福祉講演会・夏のレクチャー
「まったく同じものではないし、まったく別のものでもない—触察本の製作現場から」
8月4日（日）14:00 - （参加者30名）
講師：クリスチャン・ベッシニユール氏
（エティエンヌ産業・芸術グラフィック高等学院名誉教授）
⇒「触察本」とは、視覚に障害のある方が、「さわる」ことによって美術を鑑賞するために制作されるものです。ベッシニユールさんのお話や触察の体験を通じて、視覚による認知について考えさせられる講演会となりました。

- 2 障害者向けワークショップ 1回
障害のある人を対象に、美術を楽しめるワークショップを開催します。
⇒**現在計画を進めています。**

- 3 障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」 12回
障害のある子どもたちを対象に、身近にある材料で創作を体験するワークショップを開催します。
⇒**4月より毎月1回開催し、おおよそ定員と同程度の参加者を得ています。継続して実施することで、活動が定着しています。**

- 4 パフォーマンスの実施 1回
誰もが様々な美術表現に親しめるよう、美術家によるパフォーマンスを開催します。
⇒**現在計画を進めています**

- 5 託児サービスの実施 9回
1歳～未就学児を対象に、展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向け、託児サービスを実施します。
⇒**5月より18回の実施を周知し、うち9回に申込みがありました。利用者は延べ18名となっています。**

【達成目標】 福祉関連事業への参加者数のべ 280 人

〔目標設定の理由〕

- ・昨年度実績とほぼ同等の 280 人としました
⇒講演会 1 回、みんなのアトリエ 6 回を実施し、77 名が参加しました。

(福祉関連事業への参加者数)

(単位：人)

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
講演会	35	22	29	30
ワークショップ	43	22	19	
みんなのアトリエ	114	111	169	47
その他	347	0	55	
計	539	153	272	77

【実施目標】

- ・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親んでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。
 - ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。
-

〔目標設定の理由〕

- ・各種事業を通じて、美術館が健常者のみの施設ではないこと、障害の有無に関わらず美術を楽しめること、また各年齢や状況に応じた楽しみ方があることを伝えていきたいと考えています。
- ・設備や什器を新規に導入するよりも、対話鑑賞のような人的対応を充実させることのほうが、福祉の充実につながると考えています。
- ・障害者等のニーズを、職員が実践を通して知ることによって、次年度以降の取り組みや長期計画に活かしていきたいと考えています。

⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する

【事業計画】

- ・ 効率的な開館時間の設定
⇒通年 10 時～18 時としています。
- ・ 新規歳入増の取組み
⇒ワークショップ 2 回の利用者から負担金を徴収しました。

【達成目標】 電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数、公用車走行距離を前年度以下とします。

⇒別紙をミーティングで全職員に配布、増大している理由を検討しコスト意識をもって事業にあたるよう話し合いを行いました。

【目標設定の理由】

- ・ 夏季の夜間延長を行わず開館時間を 10 時から 18 時までとする運用を実施することで、電気使用量、水道使用量を削減し、前年度実績以下とします。
- ・ また、事務的経費である事務用紙使用枚数、公用車走行距離を前年度実績以下とする達成目標を掲げることで、職員にコスト意識を徹底させます。
- ・ 四半期毎に数値を算出、前年度数値と比較した結果を職員全員に周知し、前年度より増えている場合は原因を検討し、改善策を実施していくことで、最終的に前年度実績以下とすることを目標とします。

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度 目標
電気使用量（昼間）(kwh)	2,946,360	1,744,038	1,696,578	1,696,000
電気使用量（夜間）(kwh)	1,439,940	781,338	863,022	863,000
水道使用量（m ³ ）	4,336	4,426	4,227	4,200
事務用紙使用枚数（枚）	195,760	244,176	216,595	216,000
公用車走行距離（km）	4,138	4,921	4,756	4,700

【実施目標】

- ・職員全てが費用対効果を常に意識し、経費削減に向けた取り組みを行う。
⇒目的、効果を再検討し、事業を実施しています。2社以上からの見積合せ実施を徹底しています。

 - ・美術館運営に係る経費の収支を改善するため、新たな歳入を見出す。
⇒広告収入について検討を行っています。
-

〔目標設定の理由〕

- ・サービスを低下させず経費を削減しスリムな運営体制を目指すためには、職員全員が費用対効果を常に意識した行動が必須であると考え、実施目標としました。
- ・25年度はHPへのバナー広告募集検討、一部ワークショップの有料化を行いますが、経費を削減するだけでなく新たな歳入を見出し収支比率を改善していくことが、美術館運営に必要であると考えています。